

バリアフリー教室（中富良野町 銀嶺大学）実施概要

1. 開催日時：平成30年7月26日（木）10：45～12：00
2. 会場：中富良野町ふれあいセンター なかまーる
3. 参加者：中富良野町 銀嶺大学受講生 40名
4. 主催：北海道運輸局
5. 実施概要：バリアフリーの現状や全国的に課題となっているマナーの問題について、また、「心のバリアフリー」や「共生社会」の実現のために求められる意識や行動について講話を行った。

③心のバリアフリー（理解を深める）



外見上わからない障がい

治すことが難しい病気にかかっていて、特別な設備や医療用具などを必要としている人もいます。また、聴覚に障害のある人や弱視の人、精神的な困難を抱えている人もいます。お腹がまだ小さい妊娠初期の人なども外見ではわからないことが多く、その点でも不自由さを感じる場合があります。他にも、お年寄りや子どもなども困ることがあり、外見上わからなくても、何らかの手助けや心遣いを必要としていることがあります。

例えば

内部障害のある人（心臓ペースメーカーを使っている人・オストメイトなど）
妊娠している人（初期） 難病を抱えている人 精神障害のある人



※ヘルプマーク

援助や配慮を必要としていることが、外見では分からない人々が、周りに配慮を必要か否かを知らせることで、援助を導きやすくなるよう、東京都が作成したマーク

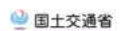


※マタニティマーク

妊産婦が交通機関等を利用する際に身につけ、周囲が妊産婦への配慮を示しやすくなり、やさしい環境づくりを推進するもの

5

③心のバリアフリー（利用者への呼びかけ）



「駅ホームでの声かけ・見守り促進キャンペーン」

- 国土交通省では、目の不自由な方の駅ホームからの転落事故防止に向けて、鉄道利用者に、声かけや見守りの重要性を伝え、実際の行動（声かけ、誘導案内、見守り）へと繋げていくことを目的として、「駅ホームでの声かけ・見守り促進キャンペーン」を実施
- 実施にあたり、全国の鉄道事業者等と連携

キャンペーンの内容

- 駅構内や車内での「ポスター」掲出
- その他、「LED表示」や「案内放送」等による呼びかけ



10



6. 受講者の感想（一部抜粋）

- ・障がいに関わらず支え合うことは素晴らしい。
- ・運輸局の仕事がバリアフリーについての取り組みの一部なのだと理解できました。
- ・心のバリアフリーについて、具体的な「例」を学ぶことが出来た。誘導用ブロックの上に支障となる物を置かない、目の見えない人が白杖を垂直に立て「助けを求めている時」等、マナーの向上を協力し、行動が必要であると思いました。